

2020分科会活動報告

東京大学TLO 山本

上條さん

楠浦さん

2020分科会は何を目指したか！

- 今の停滞した日本を一言で表すと「閉塞感」
- 経済・政治・産業・教育・福祉等々に関する議論も、比較的「今の状況」を見た議論が多い。
- そこで、約10年後に視点を置いて、10年後の社会がどうなっているのかを議論する。
- 取り分け、経済・産業・働き方・生活・教育に重点を置いて10年後の予測を行う。
- 10年後のBestシナリオとWorstシナリオを描き、その中から今をどう考えるか議論する。

実際の活動

- 前半（4月～7月）で、10年後の経済・社会・産業・働き方・生活・教育といった観点で、理想的なBestシナリオとWorstシナリオをディスカッションした。
- 楠浦さんから、日本の財政状況の解説をしていただき、現実を認識した。
- 後半で、BestシナリオとWorstシナリオの分岐点となるものは何か？という議論を行った。 例えば

山本が考える2020年

- 成長する途上国（BRICSと途上国）
- クラウドの一般化でますます世界は小さくなる
- 国境を越えた企業の再編の本格化
- 貧富の格差の拡大 ⇒ 新たな南北問題の出現
- 個人においても格差の拡大 ⇒ 価値観の多様化が進む
- 家と世界はつながる ⇒ 学習・仕事・消費・生活の変化
- 住む国を選ぶ時代
- 環境問題・食料問題・資源問題の深刻化
- 成長 vs サステナブル
- 心の時代

グループディスカッション

	世界経済	産業	企業・仕事 (働き方)	教育 学習	生活 消費
Bestシナリオ					
Worstシナリオ					
現実的推察					

2011年度の活動予定

1年間を通して感じたのは、漠然とした未来に対する疑問が多いこと。例えば

「クラウドで仕事や生活はどう変わるのか？」 「高齢化で社会はどうなる？」 「ベンチャーはこれからどうなる？」 「経済はどうなる？」といった疑問。

そこで、今回は、専門家の先生も招いて、10年後のIT社会や、10年後のベンチャーといったことを勉強したいと思います。